

平安京左京八条三坊四・五町跡現地説明会資料

－近鉄京都駅4線化およびホテル建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

調査地：近畿日本鉄道株式会社

調査実施期間：平成20年5月～8月、平成21年1月～3月（予定）

調査実施機関：財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

遺跡名	平安京左京八条三坊四・五町跡
所在地	京都市南区西九条院町 1-2・下京区東塩小路釜殿町 1-9
委託者	近畿日本鉄道株式会社
調査期間	平成20年5月～8月、平成21年1月～3月（予定）
調査面積	2,320 m ² （予定）

調査地周辺の地図

遺跡の概要

調査地の西部は平安京左京八条三坊四町、東部は同五町に相当し、現在発掘調査を実施している調査区は、各町の中央から南寄りに位置しています。

調査地のほぼ中央には、条坊路の一つである町尻小路（まちじりこうじ）（現在の新町通）が南北に延長します。

文献史料には、四・五町に所在した邸宅などに関する記載がみられます。

四町：平安時代末期（12世紀中頃）、関白藤原忠実が当町西南部に阿弥陀堂を建立して丈六の阿弥陀如来像を安置したとされます。その後、当町東部の南北2箇所（たださね）に鳥羽天皇の内親王八条院暲子の所領（八条院領）が設けられました。八条院領は、鎌倉時代（1313年）には東寺に寄進され、東寺領八条院町が成立したとされます。

五町：平安時代後期から末期にかけて、白河法皇の寵臣で権勢家の藤原顕隆（あきたか）とその子顕能（あきよし）の八条町尻第、鳥羽天皇中宮の美福門院得子の御所（びふくもんいんなりこ）、二条天皇の仮皇居（たいらのきよもり）、平清盛の弟である権大納言平頼盛（よりもり）の「池殿」もしくは「八条室町亭」などがあったとされます。

調査地周辺の地図

調査の概要

四町：東半では、井戸・土坑・柱穴などを検出しました。井戸は掘形の径が1 m・2 mの2基あり、腐食が進んでいましたが、径0.6mの曲物（まげもの）や方形縦板組の木製の井戸枠を据えていました。

中央部では建物の地業（基礎）と考えられる遺構を検出しました。北辺はほぼ東西方向を示し、東西の最大幅は約7 mあります。周囲に1～1.5mの幅で拳大の礫を敷き詰めた丁寧な造作を施しています。

また、土坑・柱穴・溝なども検出しています。東西溝は検出長が約30mに及ぶものです。柱穴には柱筋が通るものもありますが、建物としてはまとまりません。

五町：東半では、柱穴・土坑などを検出しました。柱穴では、柱筋が揃うものもあります。

このうちの1基から緑釉黒花文瓶（りよくゆうこっかもんへい）が出土しました。土坑では土師器を多量に投棄したり、礫を詰め込んだものもあります。

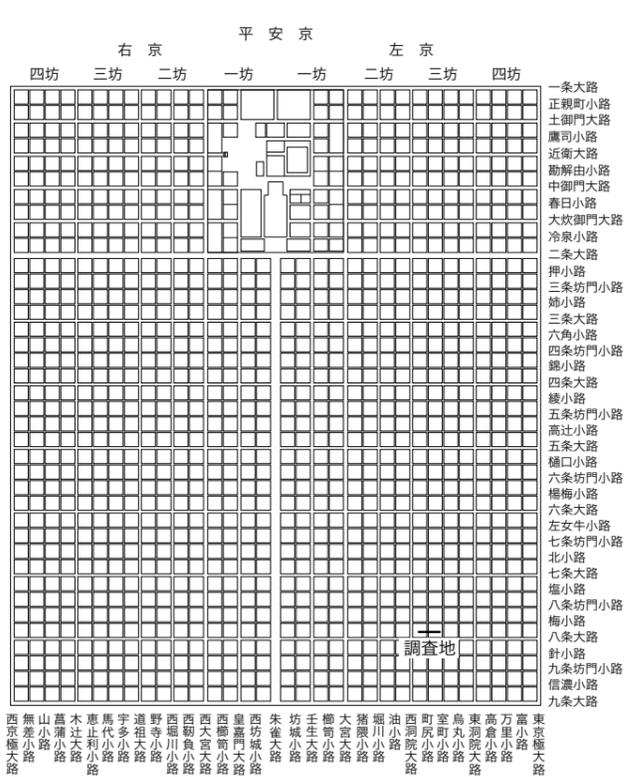
中央部では池跡とみられる礫敷を伴う遺構を検出しました。礫敷の規模は東西約3.7mあり、南側へはさらに広がります。礫敷の中央には東西約2.2mの円形の掘形があり、口径約50 cmの焼締陶器の甕、その直下に曲物を据えています。上面には密に礫を用いていることなどから、池に水を供給する泉と考えています。礫敷内には軒平瓦・軒丸瓦なども埋まっています。

町尻小路：四町―五町間で町尻小路の路面を検出しました。南北へはさらに延長しています。路面の検出規模は東西幅約14.5 mあり、東西の側溝を含めると東西幅約17 mとなり、小路の路幅としては破格の規模です。

路面は東西端に幅1.1～1.8mの平坦面があって、平坦面からは中央に向かって緩やかに傾斜し、中央部は溝状にくぼんでいます。平坦面からの高低差は約0.6mあり、路面上は礫を密に敷き詰めています。

なお、これらの遺構からは、鎌倉時代の土器類や瓦類などが出土しています。

調査地周辺の地図



調査地周辺の地図

八条三坊三町

八条三坊六町

京都駅

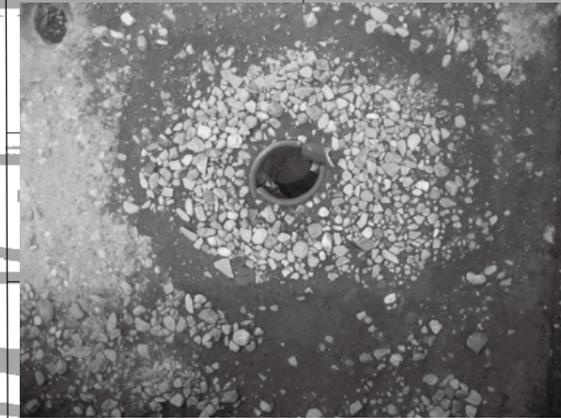
梅小路



礫敷遺構(建物の基礎 西から)



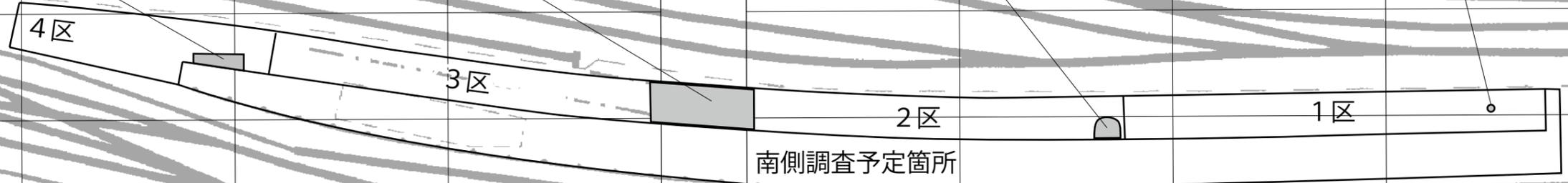
町尻小路の路面と西側溝(北西から)



礫敷遺構(泉と考えられる 南から)



緑釉黒花文瓶
(白地黒掻き落し)



近鉄(新幹線)京都駅

八条三坊四町

八条三坊五町

.25.7



八条大路

西洞院大路

.26.1

九条三坊一町

町尻小路

.25.9

九条三坊八町

室町小路